

イスラーム勉強会 テキスト

預言者ムハンマドの生い立ち第2回

勉強開始時のドゥアー

ビスミ = ッラーヒ = ッ = ラフマーニ = ッ = ラヒーム。

(慈悲あまねく慈愛深きアッラーの御名において)

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَنِ الرَّحِيمِ

アル = ハムドゥ・リッラーヒ・ラッビ = ル = アーラミーン。

(あらゆるものの主アッラーにこそすべての称讃あれ)

الحمد لله رب العالمين

ワ・アフダル = ッ = サラーティ・ワ・アタンム = ッ = タスリーミ・アラー・サイイディナー・ムハンマディン・ワ・アラー・アーリヒ・ワ・サハビヒ・ワ・サッラム。

(そして我らが指導者ムハンマドさまとそのご家族、ご教友に最高の祝福と平安がありますように)

وأفضل الصلاة وأتم التسليم على سيدنا محمد وعلى آله وصحبه وسلم

アッラーフンマ・アフリジュナー・ミン・ズルマーティ = ル = ワハム。

(アッラーよ、どうか私たちを思い込みの闇から救い出してください)

اللهم أخرجنا من ظلمات الوهم

ワ・アクリムナー・ビ = ヌーリ = ル = ファフム。

(理解の光をお恵みください)

وأكرمنا بنور الفهم

ワ = フタハ・アライナー・ビ = マアリファティ = ル = イルム。

(知識の扉をお開きください)

العلم وافتح علينا بمعرفة

ワ・サッヒル・アフラーカーナー・ビ = ル = ヒルム。

(私たちの性格を温和さでより穏やかなものとしてください)

وسهّل أخلاقنا بالحلم

ワ = ジュアルナー・ミンマン・ヤスタミウーナ = ル = カウラ・ファ = ヤッタビウーナ・アフサナ (フ)。

(そしてどうか私たちを、言葉に耳を傾け、その中でも最善のものに従う者たちの一員としてください)

واجعلنا ممن يستمعون القول فيتبعون أحسنه

このテキストの注意事項

- * テキストを作成する上での参考文献は基本的に日亜対訳・注解クルアーン（宗教法人日本ムスリム協会発行）及び預言者ムハンマドの足跡を辿って＜前編・生誕からヒジュラ（マディーナへの移住）まで＞（アフマド・クフターロー師の預言者伝講義より）訳アブー・サキーナ前野直樹によります。
その他については都度注釈を付けることを心がけます。
- * 預言者ムハンマドのお名前を聞いたり、口にしたりする時は、「まことにアッラーと天使たちは預言者を祝福する。信仰する者たちよ、汝らは彼を祝福し、最大の敬意を払って挨拶しなさい」（クルアーン33章56節）とクルアーンにあるように、必ず「アッラーの祝福と平安あれ（サッラ＝ツラーフ アライヒワ サッラム）」と祈るのがムスリムとしての礼儀ではある。しかし本テキストではあえて割愛させて頂いた。しかしムスリムの方は各自お祈りの言葉を唱えて頂きたい。
- * 本テキストで旧約聖書・新約聖書等にも登場する預言者達の名前が出てくる場合は、全てアラビア語読みとします。一例とすると「アダム」は「アーダム」、「ノア」が「ヌーフ」、「モーセ」が「ムーサ」、「イエス」が「イーサー」である。
- * アラビア語を日本語にする時にどうしても当てはまらないニュアンスの単語があり、日亜対訳・注解クルアーンと違う説明が出てくる時もあるが、出来るだけこれについても引用文献の注釈を付けることを心がけます。
- * 基本的にこのテキストでは、文献に基づいた事柄を中心にしますが、制作者の個人的な意見も書く場合があります。その場合も注釈を入れます。
- * イスラームを勉強する場合は、ムスリム（人間）を見ないようにといわれています。どの宗教でも同じですが、完全な人間はいませんので、あるムスリムを見て「あれがイスラームか」と納得しないで頂きたいと思います。出来るだけ信頼の高い文献で裏付けするか、同じ事柄を複数のムスリムに聞いた方が良いでしょう。正しい知識を得る努力をして下さい。
- * 本テキストへのご意見・疑問・質問等ありましたら制作者までお問い合わせ下さい。

بسم الله الرحمن الرحيم

アッサラーム アライクム

ムハンマドの基礎知識 2

若年期～結婚

さて今回は、8歳の時に祖父を亡くし、叔父であるアブー・ターリブがムハンマドを13番目の息子とし育てることとなる。までお話ししました。

大家族である叔父を気遣ったムハンマドは、羊飼いの仕事を始めました。

やがてクライシュ族の生業である貿易の仕事も手伝うようになり、叔父とともに商いの旅に出かけ、商人達や市場の経験を積みました。

アル=フドゥール誓約

ムハンマドは若年期に世間一般の人々に関わる重大事に関与しています。

「アル=フジャールの戦い」という醜い争いがあった後のアル=フドゥール誓約の証人となったのです。

当時アラビア社会は分裂しており、多くの家系や部族が自分達の利害のみを考え、わずかな理由だけで闘争をくり返していました。

そんな中、クライシュ族の賢者や有力者達が、不当な扱いを受けた者や異邦人の援助、諸権利の保証を誓った内容の誓約を他部族と行ったそうです。

預言者ムハンマドは、後々までこの誓約を思い出し、賞賛していたそうです。

ハディージャとの結婚

ハディージャとは、ハディージャ・ Bint・フワイリド・ブン・アサド（アサドの息子フワイリドの娘、ハディージャ）といひます。

彼女は当時、アブー・ハーラ・アッ=タミーミーという夫を亡くした未亡人で、彼との間にもうけた子供達を養っていました。

彼女は富と地位があり高貴な女性としてアラブの貴族達は夫の亡き後こぞって求婚しましたが、彼女は求婚者達の地位や富には目をくれず断っていたそうです。

さてそのころムハンマドは、どんな美しい行為でもほめたたえられることのないすさみきった当時の社会の中、非常に高い道徳心を持ち、まわりの人たちは皆は彼を心から尊敬し、彼のことを「アル・アミーン」、即ち「信頼できる人」とか「正直者」とか呼んでいました。

その噂を聞きつけたハディージャは破格の契約金を約束して自分の隊商をムハンマドに任せました。また彼女の召使いである少年のマイサラを遣わせたそうです。

マイサラはお供の中ムハンマドの正直で誠実な理想の商人であることをハディージャに報告するのです。

またムハンマドの隊商には奇異なことも起こりました。暑さがひどくなる度にムハンマドの隊商の頭の上に雲が覆うのです。こうして彼の商人としての才覚と人格、隊商の無事が続きムハンマドはとても大きな利益を得たようです。

そんな中ハディージャはだんだんとムハンマドを慕うようになったのです。

そして彼女は決心し、当時のアラブの習慣とは異なるが彼女自ら婚約を求めてムハンマドの元へナフィーサ・ Bint・ムニヤを遣わせた。

その申し出にムハンマドは応じ、結婚契約が交わされました。

ムハンマド25歳、ハディージャ40歳でした。

ムハンマドの子供達全ては、ハディージャとの間の子供であり、彼女が亡くなるまでは二人目の妻を娶ることはありませんでした。

また彼女はムハンマドが布教を開始した頃、人々がムハンマドを嘔つき呼ばわりした時も彼を心から信じ、経済的にも援助し続けたのです。

当時のアラブ世界と女性及びムハンマド

ムハンマドは、その幼年期からすでにアラビアの腐敗した社会に強い苛立ちをおぼえていました。

当時の人々はいつも飲酒と賭博にその時間を費していました。多くの家系や部族は自分達の利害のみを考え、鬭争をくり返していました。

ムハンマドは、人々はすべて一つの家族のようにお互いに兄弟同志として交際すべきであると考えていたので、当時のこのような部族間の抗争については非常に心を痛めていました。

西暦七世紀頃の世界の常として、アラビア人達も婦人を尊敬せず、また自分達の娘を愛することを知りませんでした。女の子の誕生はあまり喜ばれなかったので、時としては生まれると同時に生き埋めにされ間引きされることもありました。

預言者アブラハムが最初に建立したアッラーへの礼拝の聖地であるカアバ神殿にさえ、三六〇体もの偶像が入り込んでいたのです。これは例えてみれば、一年のうち一日につき一体の割り合いで偶像があったことになり、聖地がこのように乱用されているのを見てムハンマドは、非常に心を痛めていました。当時は、人間の歴史を通して最も暗黒の時代であり、キリスト教やユダヤ教でさえもその影響力を失い、人々の心はまったくすさみきっていました。

ムハンマドはこのような状況をひどく悲しみ、何とかこれを改善したいものだと願っていました。

ハディースの死後何年かたってからムハンマドは数人の女性と結婚しましたが、そのうちアイシャ以外はすべて未亡人が離婚した女性でした。

これは、ムハンマドがこれらの女性を必要としていたというより彼女らこそムハンマドを必要としていたというべきでしょう。なぜならこれらの結婚は、他の部族との親睦をかためるための政略結婚であり、また死亡した教友達の未亡人の生活を支えるためのものであったからです。

しかし、結婚の理由がたとえ政略的なものであれまた慈善的なものであれ、ムハンマドはすべての妻に愛情、尊敬、公正、親切をもって接しました。

こうしてムハンマドは、女性を動物に毛のはえたものくらいにしか扱っていなかった当時の人々に、貧富、老若、学識、離婚等の有無にかかわらず、すべての女性達を愛し尊敬することを身をもって教えたのです。

ムハンマドは、人々に対し「天国は、母の足下にある」と告げました。

(以上は「イスラムのホームページ」管理人あぶさんの預言者ムハンマド伝による)

上記の腐敗したアラブ世界の様子は、映画「ザ・メッセージ」でよくわかります。機会があれば是非御覧下さい。

実際の勉強会では更に詳しく口頭でお話ししています。興味のある方は是非勉強会へお越し下さい。また質問等も受付致します。

次回は、カアバ神殿再建と預言者性の前兆です。